令和7年度
国指定大雪山鳥獣保護区大雪高原温泉ヒグマ情報センター管理運営業務

完了報告書

合同会社　北海道山岳整備

令和8年3月

目次

1．業務実施結果の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（1）国指定大雪山鳥獣保護区管理棟（ヒグマ情報センター）等の管理
（2）ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等
（3）職員の研修
（4）現場管理日数等

2．報告書のとりまとめ

ヒグマ情報センターのシーズン作業の流れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2-1．ヒグマ情報センター内管理作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（1）ヒグマ情報センター等の管理
（2）登山者への情報提供（受付作業）※ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等
（3）その他

2-2．コース内管理作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1．ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等
（1-1）ヒグマ情報の収集、記録

2-3．ヒグマ情報センター外作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

（1）インターネット等による情報発信
（2）職員研修
（3）携帯トイレブースの設置と解体
（4）情報発信についての注意事項

3．〈参考〉.北海道及び上川町関連業務並びに自主事業 ・・・・・・・・・・・・・ 24

（1）登山道の整備及び維持管理

4. 2025年の課題と対応について ・・・・・・・・・・・・・ 29

＜巻末資料＞ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

○ヒグマ個体及び痕跡記録表、位置図
○個体識別写真
○エゾシカ個体表
○2025年　登山道付近での目撃・遭遇状況
○ヒグマ観察記録経年変化
○沼巡り登山コース利用者経年変化

＜別添資料＞

○業務管理日誌

1．業務実施結果の概要

(1)　国指定大雪山鳥獣保護区管理棟(ヒグマ情報センター)等の管理

①　建物等の管理

1　開館･閉館の管理

今期は6月24日から作業を開始。10月5日に冬囲いを行い、閉館した。
通常は7:00～16:00までを開館時間とし、常駐しないときには施錠した。

2　管理棟付帯施設の管理など

＜水道など＞
日々の点検を行った。水道ポンプについては別途業務による取り付け、撤去が行われた。
＜し尿汲み取り＞
別途業務により、し尿汲み取りが行われた。

3　巡回等

日々施設内を巡回、点検し、不具合発生等を確認し必要に応じて対処した。

4　清掃等

毎日業務時間内で清掃を行い、週2回、ゴミを分別し層雲峡ゴミ回収場へ出した。
層雲峡で回収できない大型ゴミや危険ゴミは別日に愛別ゴミ処理場へ出した。

5　管理日誌の記載

日々の作業内容や利用者状況、ヒグマ情報等を管理日誌にパソコンで記録。

②　物品の使用及び管理

レクチャー用のモニターは専用取り付け金具により固定。施設閉館時にモニターは回収し、大雪山国立公園管理事務所に返却。なお、環境省担当官との調整により、金具は取り付けたままにしている。

③　その他の管理

･施設の鍵は閉館時に環境省担当官へ返却した。
･請負者自身において携帯トイレやお土産等の販売のため、販売場所について国有財産使用の許可をとった。

(2)　ヒグマ情報の収集及び提供、記録の管理等

① 早朝を含む高原温泉沼巡りコース及び周辺におけるヒグマ出没情報等の収集(※1)
並びに利用者への情報提供(※2)を行った。

※1 ヒグマ出没情報等の収集

○原則としてヒグマ出没時は2名以上の現場巡視体制をとり、定点モニタリング及び巡回しながら登山者とヒグマとの近距離遭遇が起きないようにした。
また、6か所(時期によって変更)に定点カメラを設置し、ヒグマの動向を確認した。

○ヒグマが確認できないときには登山道整備やコース内の点検、センター内にて情報のまとめやSNSへの情報公開を行った。

○高原温泉沼めぐりコース、および白雲岳避難小屋を通過した登山者がヒグマ情報を持っている場合はアンケート形式(書式共通)の聞き取りを行い、情報をまとめられるようにした。
ヒグマセンターでは3件、白雲岳避難小屋では11件の登山者からのヒグマ情報が集まった。

※2 利用者への情報提供と収集

○センター内のホワイトボードにてヒグマ出没の表示やヒグマ出没カレンダー、沼情報誌の掲載を行った。また、50インチのモニターを使用し、ヒグマの行動記録やコース内の様子を常時流した。レクチャー時においてはPPTを作り、写真や動画を見せながら解説をすることで詳細な情報を伝えることを行った。

○正確なコース情報の伝達や日々のヒグマ情報を利用者に伝え、不要な恐怖心や安易な行動が起きないよう、ヒグマと人間との望ましい共存を目標として、SNSを通じて管理情報を発信した。

○6月下旬からコース内でヒグマとの遭遇が多発した。人に執着するような問題ヒグマではなかったが、遭遇時の登山者の行動がレクチャー通りに行動してくれないことが多く、このままではさらなる人馴れや事故が起きる可能性があると判断し「登山者の行動がコントロールできないため」にコース閉鎖の判断を管理者である北海道担当者に具申した。

② ヒグマの出没状況、ヒグマの個体識別情報、ヒグマ個体の行動段階情報等を記録データ化し、管理した。動画や写真などの情報記録は、環境省が貸与したハードディスクに保存した。

○ヒグマの出没状況、識別情報、行動記録等データは巻末資料として別紙に記載

③ 高原温泉沼巡り登山コース及び周辺における利用者に対し、クマよけ鈴及びクマ撃退スプレーの携行を促した。

○高原沼巡り登山コース及び緑岳情報を得に来た登山者や周辺の状況を聞きに来た来館者に、鈴やクマよけスプレーの必要性を説明し、携帯を促した。鈴等の携帯がない人には、鈴の販売やレンタルを行った。

(3)　研修の実施

ヒグマの生態に関わる最新の知見を収集し、職員との情報共有を図るとともに、ヒグマ情報収集の業務が円滑に進むように配慮して行った。

○今期はセンター職員7名のうち4名が新規センター員であったため、日々の業務内容は常に経験者が教えられる体制を作り、とくに6月は経験者と共同でコースを回り情報共有に努めた。

○センター職員4名に関して、知床財団に派遣し、ガイドと知床スタッフの連携による情報収集体制作りや現場ガイドの判断、利用者への配慮事項、センター内の情報発信スタイル、知床地区でのヒグマの管理体制等について研修を受けた。

○知床における新人スタッフへの研修は、ヒグマ対応ができるようになる研修ではなく、ヒグマの管理体制の概要を知る研修であるため、これらの研修は現場スタッフだけでなく環境省職員や町職員など、管理にかかわる関係者が受けるべきものと考える。

○ヒグマ対応の先進地である知床地域とのつながりができ、不明点があれば相談できる人的交流が深まったことは成果として挙げられる。

(4)　現場管理日数等

現場での管理等は 258人日（目安として 6 月は 14 人日、7 月は 71人日、8 月は 73 人日、9月は 80 人日、10 月は 20人日）以上とする。

	予定人員（目安）	実施人数
6月	14人	30人
7月	71人	75人
8月	73人	67人
9月	80人	58人
10月	20人	28人
合計	258人	258人

＜コース閉鎖時の対応＞
今期は7月からコース閉鎖を解除することがなかった。その間でもコースの巡視は定期的（ほぼ毎日）行い、ヒグマの状況確認やコース内の整備など、コース利用がいつでも再開できるよう記録とメンテナンスを行った。

2. 報告書のとりまとめ

ヒグマ情報センターのシーズン作業の流れ

今期は約3ヶ月間以上のコース閉鎖があり、ヒグマ情報センターの役割を大きく変えざるを得なかった。利用者に対しての直接的なレクチャーによるヒグマ対応啓発はほぼ機会が無くなったため、SNSなどインターネットによる情報発信を強化し、「ヒグマ問題が顕著になった北海道で、自然の中にいるヒグマを知ってもらう」ことを考え、情報の収集と発信に努めた。

作業は大きく**「センター内管理作業」「コース内管理」「センター外作業」**の3つに分け、その中で重要度や発展性を考え、シーズンを通してやるべき作業を行った。

＜シーズンを通しての作業の流れ＞

		センター内管理作業	コース内管理	センター外作業
6月	センター開け	モニターレクチャー開始	コース確認、巡視開始	SNS情報発信開始
	三笠新道閉鎖	募金活動開始※	携帯トイレブース設置	
	コース閉鎖	沼情報誌発行	トレイルカメラ設置	白雲への荷上げボラ募集
7月				日々の動画情報発信開始
				知床への職員研修
8月				ヒグマ専門家による コース視察
9月				高根ヶ原ヒグマ調査
10月	撤収、 コース閉鎖		携帯トイレブース撤収	
			コース内撤収作業※	
	センター閉め	センター冬囲い		
11月～ 3月				報告書作成

※北海道及び上川町関係業務及び自主事業を含む

＜日々の作業の流れと人員の配置＞

時間	作業内容(シャトルバス期間を除く)	コース内管理①	コース内管理②	センター内作業	山守隊ボランティア
6:30～	ミーティング(業務確認・配置確認)、展示室内清掃 駐車場トイレ清掃、巡視員出発、ヒグマ痕跡確認	●	●	●	
7:00～	コースオープン、白雲岳避難小屋との定時連絡、 巡視員からの情報連絡	●	●	●	
7:00～	入山者対応、館内清掃、販売物管理			●	
6:30～	登山道巡視、軽微な補修作業、施工箇所までの資材運搬	●	●		●
9:00～	登山道巡視及びトレイルカメラの確認	●	●		
～14:00	登山道巡視(定点ではない) ※どちらか1名は定点での張り付き観察		●		
～15:00	最終登山者と下山、軽微な整備作業	●	●		
～15:00	写真整理、沼情報紙作成、SNS用データ分類			●	●
～15:00	登山道整備(センター員は登山者が少なく、 ヒグマが確認できないときに作業する。山守隊は終日)	●			●
～15:00	センター内展示物作成、レクチャー用VTR作成 SNSをアップロード				●
～16:00	全員でのミーティング、コース内把握、 SNSや展示物の進捗を確認	●	●	●	●
～16:00	白雲岳避難小屋との定時連絡、日報作成			●	

今期も一日当たりの作業員は4名を基本として作業を行った。
レクチャー及び登山者対応、センターでの情報提供、ヒグマアンケート、SNS情報の編集と発信、掲示板の刷新、掃除など2～3名体制で行った。また、巡視は基本的に2名、ヒグマ遭遇があった場合は二人一組を基本として2～4名での巡視を行い、安全対策とした。

2-1.ヒグマ情報センター内管理作業

センター内管理は大きく分けて**「建物の管理」「登山者への情報提供(受付業務)」「展示物の作成」「その他」**の4つを行っている。

(1)ヒグマ情報センター等の管理

・国指定大雪山鳥獣保護区管理棟の管理を行った。

・6月25日から管理を開始した。開館時間は7:00～16:00とし、レクチャー業務を行いつつヒグマ情報の提供・問合せに対応した。

・水道は開館前に取り付け、10月8日にポンプ取り外しが行なわれ、同時に水道栓の開閉を行った。(別途業務)

・汲み取りは7月と8月と9月に行った(今期3回)。(別途業務)

・館内巡回及び清掃を毎日行い、週に二度ゴミを層雲峡回収場へ搬送した。

・管理日誌は毎日作成し、日々の情報を記録した。また、ヒグマ情報の収集と管理を行った。

・白雲岳避難小屋との定時連絡(7:00と16:00の2回)を行った。

・林野庁事務所との情報共有を行った(高原山荘は今期休館)。

・インターネット通信機器「スターリンク」を設置し、情報の送受信を行えるようにした(環境省)。

6月24日から業務開始

看板設置やコース内管理

SNSへの情報発信

歩道及びヒグマセンター利用者　　※今期のコースの供用日:6/21,25～28

月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
個人	159	0	0	0	0	159
(うち外国人)	(26)	0	0	0	0	(26)
団体	0	0	0	0	0	0
歩道利用者合計	159	0	0	0	0	159
来館者	36	144	104	117	26	427
来館者 歩道利用者合計	195	144	104	117	26	586
個人のうち、 三笠新道通行者	107	0	0	0	0	32

(2)登山者への情報提供(受付業務･6月30日まで入山者へのレクチャー)

受付業務の流れ
- ･登山者が来館
- ･受付名簿に記入
- ･PPTによる口頭でのレクチャー開始
- ･レクチャー終了後、口頭での注意事項や今現在の様子をレクチャー
- ･登山者が入林

レクチャー時には50インチのモニターを使用し、PPTによる口頭での解説を行った。PPTには写真や動画、イラストを交え、理解しやすく飽きにくい解説とした。

ルート解説やヒグマ情報、紅葉の注意点など時期や状況によって解説内容を都度選択。

レクチャー時以外は、ヒグマの写真や動画、コース見所のVTRに切り替えて、見学者へと対応した。

32インチのサブモニターも導入し、日々発信している動画を流した。

センター職員は巡視員からのリアルタイムの登山道やヒグマ情報を逐次表に書き込み、登山者へ伝えるようにした。

受付業務従事者はベストと帽子、腕章を着用し、ベストにはネームプレートを取り付け、スタッフとわかるように配慮した。

↓10日に一度の沼巡りニュース作成
高原温泉沼巡りコース内での10日間の出来事をまとめたものを作成。センター内に掲示するとともに、関係行政、層雲峡ビジターセンター、層雲峡協観光協会、旭岳ビジターセンター、黒岳ロープウェイにも共有。

↑レクチャー中のセンター内はできるだけレクチャーに集中してもらうため、レクチャーの時にはセンター外で待つようにしてもらい、そのための看板と対応者を配置した。

(3)その他

＜林道の点検･ゴミ拾い、陥没の報告や倒木処理＞

･林道にゴミが落ちている場合はヒグマやキツネが興味を持たないようスタッフがかたずけている。
･林道の中央に陥没箇所があり上川町に報告した。
･強風時などは林道走行時にチェンソーやのこぎりを装備しておき、倒木があるときには素早く処理を行った。4回程度処理をした。

＜ 各所への情報掲示＞

ヒグマ遭遇や緊急的な注意喚起情報があった時には、ヒグマ情報センター員及び白雲岳避難小屋管理人が白雲岳避難小屋、白雲分岐、緑岳登山口、沼の原登山口、赤岳登山口に情報提示を即日で行った。
また紅葉時期にはコース閉鎖を知らない人が登ってこないよう、国道付近の林道入り口、林道の分岐などに「コース閉鎖」の張り紙を設置した。

＜･白雲岳避難小屋へのボランティアヤシ土嚢袋運搬対応 ＞

･ボランティアによる土嚢袋運搬を行うため、ヒグマセンターの入口に土嚢袋と看板を設置した。
･希望者にはスタッフが対応し、白雲小屋への連絡をするなどして気軽に持っていけるよう配慮した。
･時々、背負子による運搬希望者（数多く運びたい希望者）がいたときには背負子を貸出しするなどの対応を行った。
･白雲小屋では缶バッチを配るなど返礼も用意し、SNSでの報告発信などもしつつ、協力体制が作られるよう努力した。

＜入山記入者表の刷新＞
コース閉鎖前（6月のみ）は入山者名簿の記入を登山者にお願いした。
2024年の紅葉期から個人向けに対応した入山名簿となっており、レクチャーの内容を理解したというチェック欄にチェックする記載方法となっている。しかし、これは単なる責任の所在の対応手法であり登山者の理解が深まるものではない。これによって登山者の行動が変わる状態にはなっていない。

大雪高原温泉沼めぐり登山コース
入山者記入表

【入山前に必ず下記を確認し、問題なければ□に✓をしてください】

□ 私は入山前のレクチャー内容を理解しました。

★事前のレクチャーを聞いて、ご自身の入山に不安やリスクを感じる場合には登山の中止もご検討ください。

【入山者情報】
※グループの場合は代表者のみご記入ください。

代表者氏名：	
住所：	都道府県名→
	市区町村名→
人数：	名
※ガイドツアーですか？…（ はい ・ いいえ ）	
鈴の有無：	あり ・ なし

＜灯油の補充 ＞

2025年は約200ℓの灯油を補充した。

＜発電機・蓄電池の使用とメンテナンス＞

今期から電気は発電機と蓄電池によって賄われることとなった。発電機は毎日の電源オンオフ(一日中つけることはNG)と燃料の購入と継ぎ足しを行った。蓄電池においては発電機による蓄電が満充電になった時は電源が切り替わるようにし発電機の燃料を節約できるよう努力した(発電機は上川町がリースして設置。発電機の燃料は環境省。蓄電池はジャクリ―のサポートによって利用している)。燃料(軽油)はセンタースタッフが上川町のガソリンスタンドで随時購入した。

＜雪囲いの塗装・網戸のメンテナンス＞

窓ガラス用の雪囲い塗装がほぼなくなっていたので、塗布した。
また、窓の網戸の網をすべて交換した。

＜建物に関する留意事項＞

ヒグマ情報センターの看板の腐食が目立つ。
まだ数年は持つと考えられるが、数年のうちに交換も考えるべき(その頃にはセンター各所の交換も必要になる)。

所々の壁などの木部において、アリによる被害が見受けられた。
全体に問題があるほどではないが、今年は数か所で見られた。

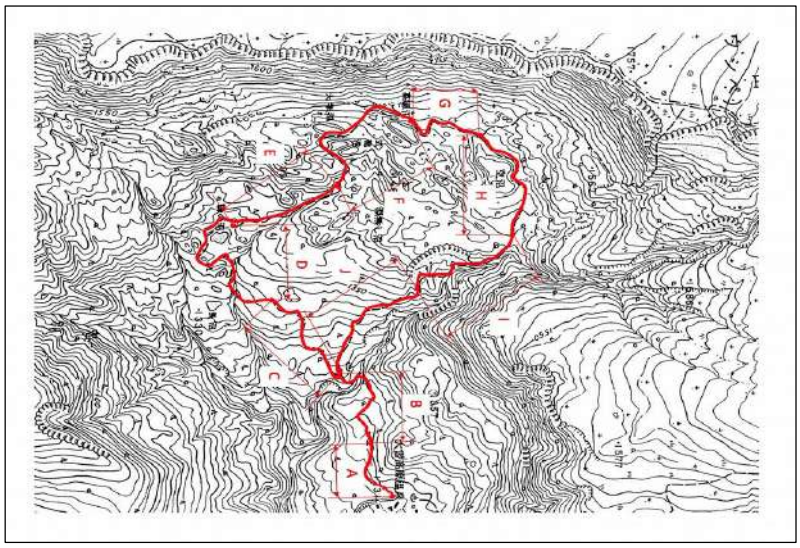
＜ヒグマ遭遇アンケートの収集＞
登山者へのアンケート記入式のヒグマ情報収集を行った。これはコース利用者がヒグマと遭遇した状況をスタッフが聞き取り記述するものである。ヒグマ遭遇後は多くの登山者は興奮状態であり登山者自身が記入すると内容の振れ幅が大きくなる可能性が高いため、スタッフが状況を聞き取り、使える情報になるようにまとめた。
※2025年は3件の聞き取りがあった。

大雪山国立公園ヒグマ遭遇情報共有アンケート

月日	令和　年　月　日
遭遇時間	時　分　頃
天候・気温	晴れ・曇り・雨・ガス（気温　℃程度）
遭遇場所	
ヒグマの特徴	
ヒグマの大きさ・特徴(もしなかれば特徴を記入)	成獣　亜成獣（若グマ）　子熊
ヒグマの頭数	単独・親子（成獣　頭　子熊　頭）
ヒグマとの遭遇状況	
ヒグマとの距離	約　m
鈴や音はなっていたか	鈴（有・無）／音・声／何もしていない
ヒグマは何をしていたか	食べていた・移動していた わからない・その他（　）
ヒグマはその後どうしたか	逃げた・動かない・近づいてきた
威嚇行動について	見た・ふなる・その他（　）
あなたはどうしたか	じっとした・声を出した・逃げた
あなたは危険を感じたか	感じなかった・感じた（　）
最後にヒグマはどうしたか	立ちあった・その場に留まった・他（　）
その後の状況	
シカなどの動物の死体の有無	無・有（食べられた痕あり・なし）
備考	

受付担当：

© 2026 高原温泉ヒグマ情報センター　Brown Bear Information Center



2-2･コース内管理作業

コース内管理は大きく分けて**「ヒグマ情報の収集、記録」「登山者への情報提供、啓発、注意喚起（今期はSNSをメインとした）」「登山道整備※」**の3つを行っている。

※登山道整備は北海道及び上川町関係業務として第5章に記載した。

(1-1)ヒグマ活動の情報の収集、記録

･コース内の痕跡調査、記録

･ルート上にあるヒグマの痕跡、フン･足跡･食痕･体毛などを確認したときには、速やかにセンターに伝え、登山者へ情報として伝えた。
･また、周辺の調査も行い、移動方向や通った時間の割り出し、足跡サイズからの大きさや雌雄の判別などを行い記録した。
･コース内に11か所の定点カメラを設置し、通過するヒグマを含めた動物の調査、記録を行った。

シーズン全体の記録数

＜フン＞ 大きさ、色、内容物、新旧の判別等	28回の記録	＜食痕＞ 採餌量、移動方向、採餌種類等	43回の記録
＜足跡＞ サイズ、頭数、移動方向、 新旧の判別等	76回の記録	＜センサーカメラ＞ 行動、大きさ、性別、親子等	24回の記録
＜体毛＞ 木道に擦り付けた体毛を採取	0回の採取		

・ヒグマの目視、行動の記録

・6月はヒグマとの遭遇が多かったため、ヒグマが目撃された地点を中心とした巡視による記録。
・7～10月はコースを回りながら痕跡の確認を行い、コース付近にヒグマがいる場合は記録後速やかに下山し、ヒグマが人馴れをしないよう配慮した。
・ドローンによる記録を数回行い、ドローンを認識した時のヒグマの行動変化を記録した。

個体確認 （1頭を1回とする）
44回

コース巡視、痕跡確認

センサーカメラの設置

2025年のヒグマの動向（各月の観察状況）

6月	個体確認 9	定点個体 0	足跡 13	食痕 3	フン 0	体毛・爪痕 1

・2025年の残雪量は2024年と比べて多かったが、5～6月の気温が非常に高く、雪解けのペースが例年よりも早かった。
・高根ヶ原斜面のヒグマの居着きも早かったと思われるが、斜面だけでなく樹林帯を生活環境とするヒグマも多く、痕跡の地点など例年と違う印象があった。
・6月は登山者やスタッフとヒグマとの遭遇が相次いだためコースを閉鎖したが、人に興味をもって近づいてくる個体ではないと思われた。

7月	個体確認 29	定点個体 14	足跡 29	食痕 22	フン 13	体毛・爪痕 0

・7月からは入山者はいなかったがヒグマ状況を知るために巡視を継続した。
・親子グマが高根ヶ原斜面を生活圏にしていることが多く、単独ヒグマも含め複数の個体が確認された。
・斜面以外での痕跡も多く、樹林帯も生活圏にしていると思われる。
・6月末でコースを閉鎖したため定点観察(登山者がいる場合に定点でヒグマを確認する巡視)は行っていない。

8月	個体確認 6	定点個体 10	足跡 19	食痕 16	フン 13	体毛・爪痕 0

・8月も7月同様に高根ヶ原斜面での確認が多かったが、登山道脇の食痕や登山道上の足跡など、3年前と比べても多くなっており、特にミズバショウの食痕が多く、主食の植物を変えたのでは？と思うほど食べているように感じる。
・登山道の巡視は1周するだけにとどめているため(いつもならば登山者がいる時間は常に観察している)、定期的な目視だけになっている。そのためセンサーカメラを痕跡地点を中心に設置し、例年よりも稼働時間を増やした。

9月	個体確認 0	定点個体 4	足跡 15	食痕 2	フン 2	体毛・爪痕 0
10月	個体確認 0	定点個体 0	足跡 0	食痕 0	フン 0	体毛・爪痕 0

・9月は目撃が減り、例年ならばコース利用再開を目指すが、今期は閉鎖継続を決定し、巡視等の継続を行った。
・目撃は減ったが、センサーカメラに記録されるヒグマや登山道上の痕跡はあり、例年通りに斜面から樹林帯に生活圏を移していると思われる。
・2024年はナナカマドが豊作で高根ヶ原斜面付近での目撃が続いたが、2025年はナナカマドは普通もしくは実成が悪い状況だったた影響もあるかもしれない。
・林道や駐車場での目撃もあり、ヒグマの行動範囲がどの程度あるか知りたいところである。

	場所名	設置日	撤去日	ヒグマ記録	時間	頭数	
A	センターから200m	7月4日	7月11日	なし			
B	センターから700m	7月4日	8月10日	7月9日	19:56	1	
				7月13日	16:47	1	
				7月15日	19:38	1	
				7月18日	18:34	1	
C	しょうこの沢手前	7月4日	10月3日	なし		1	
D	センターから約2.3km	7月4日	7月24日	なし			
E	センターから約2.4km	7月4日	9月26日	7月6日	19:53	1	
				7月11日	11:45	1	
				7月11日	17:21	1	
				7月14日	0:32	1	
				7月15日	9:27	1	
F	鴨沼	7月24日	9月16日	なし			
G	大学沼	7月14日	10月3日	7月14日	11:12	1	
				7月14日	15:38	3	親子
				7月15日	14:54	1	
				8月6日	19:15	2	親子
				8月13日	7:44	1	
				8月13日	18:29	1	
				8月14日	3:37	1	
				日付不明	不明	1	
				9月6日	10:26	1	
				9月16日	9:53	1	
K	ナナカマドトンネル出口	7月28日	9月27日	8月4日	14:19	2	親子
				8月13日	11:21	1	
				8月24日	12:10	1	
				9月17日	16:56	1	
				9月17日	17:53	1	

2025年のセンサーカメラ記録(一部抜粋)

7月15日　B地点	7月18日　B地点
7月6日　E地点	7月11日夜　E地点
7月14日　G地点	7月15日　G地点
8月24日　K地点	9月17日　K地点

2025年は巡視にかける時間が減ったためセンサーカメラの活用を強化した。例年よりもヒグマが利用していると思われる場所への変更を多く行い、頻繁な確認を行った。巡視時間の減少でできた時間を、センサーカメラの確認に回し、ヒグマの行動状況記録を行った。
記録を見ると、ヒグマが確認された10分後に巡視員が通行するなどニアミスもあったが、人の気配を察したヒグマが移動したとも考えられ、積極的に人に近づく個体は確認されなかった。

2-3.ヒグマ情報センター外作業

センター外作業はSNSでの情報発信作業など、大きく分けて**「インターネット等による情報発信」「職員研修」「携帯トイレブースの設置と解体」**の3つの作業を行なった。

(1)インターネット等による情報発信（ホームページ、Facebook、インスタグラム）

・ホームページ（HP）

ヒグマセンターの要になるFacebook、インスタグラムなどを網羅した発信基盤として作成した。
沼巡り情報誌やヒグマ対策方法、スタッフ紹介なども記載。現在も構成や内容を刷新しながら継続している。
HPでの情報はほかのSNSと違い、常に必要な情報や重要事項を載せている。

今期はHP内容（ヒグマ対処法）の修正、10日に一度のクマニュースの更新を行った。

ホームページから下記情報を閲覧できるように日々の管理を行った。

・最新ヒグマ情報　　・ヒグマ対処法

・コース案内　　・お問い合わせ

・スタッフ紹介　　・youtube

・コース紹介　　・Facebook

・アクセス　　・インスタグラム

・沼情報誌　　・関係機関の連絡先

・ギャラリー

HPトップ画面

・Facebook

今期はコース閉鎖のため現地に来た人への発信は出来なかったが、その分大雪山のヒグマについての理解をSNSを活用して発信すべく、情報公開を強化した。

・インスタグラム

・SNSの媒体としてFacebookインスタグラム、リール動画などを活用した。
・リール動画は早急に対応すべきことや興味深い動画を投稿した。
・Facebookインスタグラム共にスタッフの投稿と代表岡崎の投稿を分けて考え、スタッフは日々の巡視や記録を淡々と発信し、現状をそのまま伝えることを目標にした。代表岡崎はヒグマに対する考え、視点、行動、雰囲気、世論と実情の乖離など、テーマを掲げて「ヒグマに対する視野の拡大」を目指した投稿を行った。
・Facebook、インスタグラム共にフォロワーは増え、投稿は1投稿当たり3万～20万程度リーチが多く、最大270万のリーチがあった。
・登山者にはYAMAPやヤマレコの情報が共有されることが多いが、今期はこれらのアプリは使用しなかった。

(2)職員研修

①知床での研修

・センター職員のスキルアップの為、ヒグマ対応の先進的な取り組みを行っている知床財団に赴き、ヒグマ対応やスタッフとしての取り組み、将来性を考えた行動のアイデア、安全管理体制などを一泊二日で学んだ。
懇親会ではスタッフ交流も行い、知床財団と大雪山との情報共有を行った。

②沼巡りコースでの研修

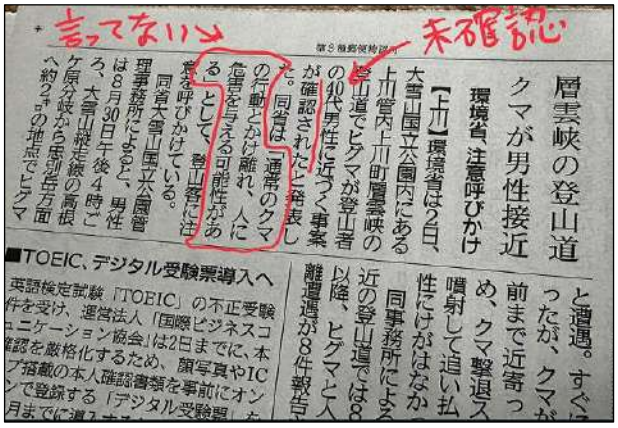
・8月に知床財団秋葉氏、もりねっと山本氏による現地視察があり、スタッフも参加しコース内のヒグマに関する専門家の判断を聞いた。

(3)携帯トイレブースの設置と解体(緑沼奥)

＜設置＞
・スタッフ2～3名での作業。
・ボルトナット以外はほぼすべて残置している。
・部品の交換も無く、引き続きすべての部材を使用した。木材の表面にカビや汚れが目立つようになったため、ヤスリで表面を削り対応した。来期は再塗装など対応すべきと考える。
＜内部＞
・清潔感、広さ、ともに問題はない。床面に泥汚れなどがある場合は付近の沼や川で汚れを落とした。
＜解体・残置＞
・2～3名での解体。9月19日に解体した。

(4)情報発信についての注意事項

ヒグマ情報に関するメディア対応は熟慮して対応する必要があると感じた。
9月3日の北海道新聞に載った記事では「事実が確認された」「通常のクマとはかけ離れたクマ」など現場では一言も言っていないことが書かれていた。実際は「登山者からの通報があった」「これから現場確認する」ということだったが、メディアを通すと記者のイメージに置き換わると感じた。
8月の専門家による視察時にも記者とカメラマンが来たが、その後の記者の質問事項があまりにも偏っていたため、記事にするならば一度こちらに確認をとるよう促し、結果記事になることはなかった。
メディアによる情報は事実よりもほしい情報に置き換わる可能性があると認識し、「書くならばこの事実はこの通り記載せよ」というような発信を現場の意志として伝える必要がある。
またメディアからは動画等の記録の使用を求められたこともあるが、どのような使い方をされるかわからないためすべての依頼を断っている。依頼があった場合、ヒグマ情報センターに確認をとるよう伝えてもらいたい。



3.≪参考≫北海道及び上川町関係業務並びに自主事業

(1)登山道の整備及び維持管理

木柵階段設置による段差処理や流れた橋の再設置、渡渉地点への石材による足場設置などを行なった。

①センターから50m付近	木柵階段1段設置

②センターから150m付近	石段1段設置

③センターから150m付近	木柵階段1段設置

④センターから150m付近	木柵階段1段設置、3段補修

⑤センターから250m付近	木柵階段4段設置

⑥ヤンベタップ沢	橋の再設置

⑦バイカモ沢	沢の中で植物の上に堆積した土砂の除去

⑧ショウコの沢上部	木柵階段5段、石段10段の補修

⑧右コース渡渉地点	渡渉地点の足場再設置

⑨右コース登り返し急坂	木柵及び石材にて32段の階段設置

4. 2025年の課題と対応について

＜課題＞

今期は利用者のヒグマ対応が正しく行われないことが大きな課題だと考える。またこのレクチャー体制の限界も見えたと思っている。

6月コースオープン時、三笠新道方面に向かう登山者には「ヒグマが生活している場所だからいたら引き返して」とお願いしても実際にヒグマを確認して引き返した人は1割にも満たない。ほとんどの人がヒグマがいても「問題ない、危険に対応できる」と判断してヒグマの近くを通行、または春スキーなどを楽しむ状態だった。

このままの状態で利用が続けば、ヒグマはさらに人馴れし、登山者がいても全く逃げない状態になっていくと思われる。また現状でも登山者を気にせずに登山道付近で子育てをするヒグマもいるが、人を気にしないヒグマであっても出会い頭での遭遇時には威嚇をする場合がある。今期は沼巡りコースに近い高根ヶ原登山道では数組の登山者がブラフチャージ（威嚇突進行動）を受けたと報告があった。人馴れしたヒグマが多くなり、登山者が多様な歩き方をした場合、あるいはリスクを考えずに歩いた場合、ヒグマによる事故はかなり高い確率で起きてくると考える。

現状のレクチャーでは登山者の行動を正すことではなく、単なるヒグマの知識を伝える程度のレクチャーしかできていない。また登山者の行動やどうしても山を歩きたい欲を15分程度のレクチャーで抑えることは不可能である。ヒグマとの遭遇時において、その登山者の危険は除去できても、人馴れの度合いを増加させいつかは人に近づくヒグマに変わっていく、という想像をし、そのための行動をとれる人はほぼいない。

結論としては現状のレクチャーと登山者の善意に頼るルールでは、このコースがヒグマを人馴れさせる場所となってしまい大雪山の利用に支障が起きる場所となってしまう可能性があると考える。
これらを解決し、このコースからヒグマへの新たな対応方法ができる利用体制を作り、発信していく場所として、次のアイデアを提案する。

＜巡視員と歩く状況を作る＞

○将来的に知床五湖と同様のガイド制度を作り、ガイドによる利用継続と登山者の行動抑制を行う。
今期もヒグマとの遭遇事例はあったが、巡視員は通常通りコース巡視を継続した。常々ヒグマの行動を読み、リスクある場所を認識し、実際にヒグマがいたら引き返す、という行動を取り続け危険な状況になることはなかった。ヒグマの危険を理解し対応できるガイドが同伴することでコース利用の継続は可能だと考える。

○ただし、いきなりこの場所のガイドを作ることや制度の純度を上げていくことは難しいため、来期は巡視員と登山者が一緒に行動する「巡視員と巡視するツアー」という形を作り、利用人数を制限しつつも巡視員が対応できる範疇で登山者利用を再開させていきたい。このコースのヒグマは時期によって行動パターンが変わるため、季節に合わせた利用体系を作り、その一部が巡視員と歩く時期、という形を想定している。

○またこれらの巡視ツアー時にはヒグマを見つけ引き返す場合やヒグマがいても進む場合も想定される。それらの判断を随時発信し「こういう状況ではこう対応すべき」という具体的対応の啓発に繋げていきたい。

○「巡視ツアー」では利用者数によって巡視員の数も変わるため、登山4者名以下であれば巡視員一人、8名以下であれば巡視員2人など、ある程度の巡視員増を想定し利用者への対応を行っていきたい。

○将来のガイド制度移行を想定し、ガイド団体などとも連携し、現状のガイドの経済性も考慮した計画作りを同時進行として進めていくべきと考える。

○利用制度と同時に、ヒグマの個体識別や行動範囲を調査するために、ドローンによる個体識別や糞のDNA調査なども同時に行い、できる限りのヒグマの行動パターンを理解する努力が必要だと考える。

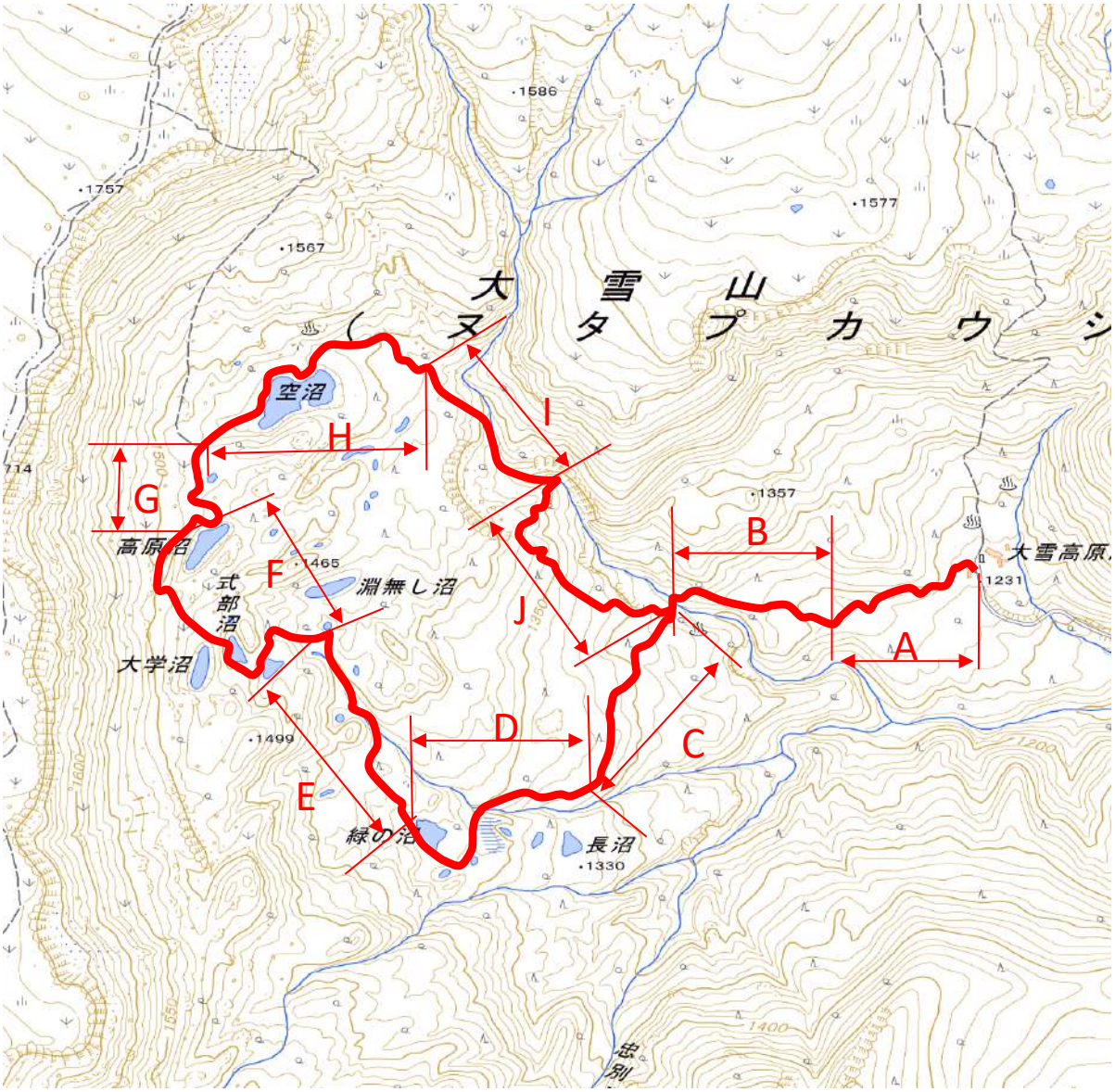
○これらの総合的な判断をするためには、管理者、現地スタッフ、研究者、ガイド、知床財団（五湖制度を知るため）などと連携し、将来設計を考えたうえでの実行をしていきたいと考える。

○とはいえこれらの利用体系を刷新させるには現状のスタッフ体制では資金面からも上記のアイデア実行はかなり難しいため、将来を考えた業務体系の刷新が必要と考える。

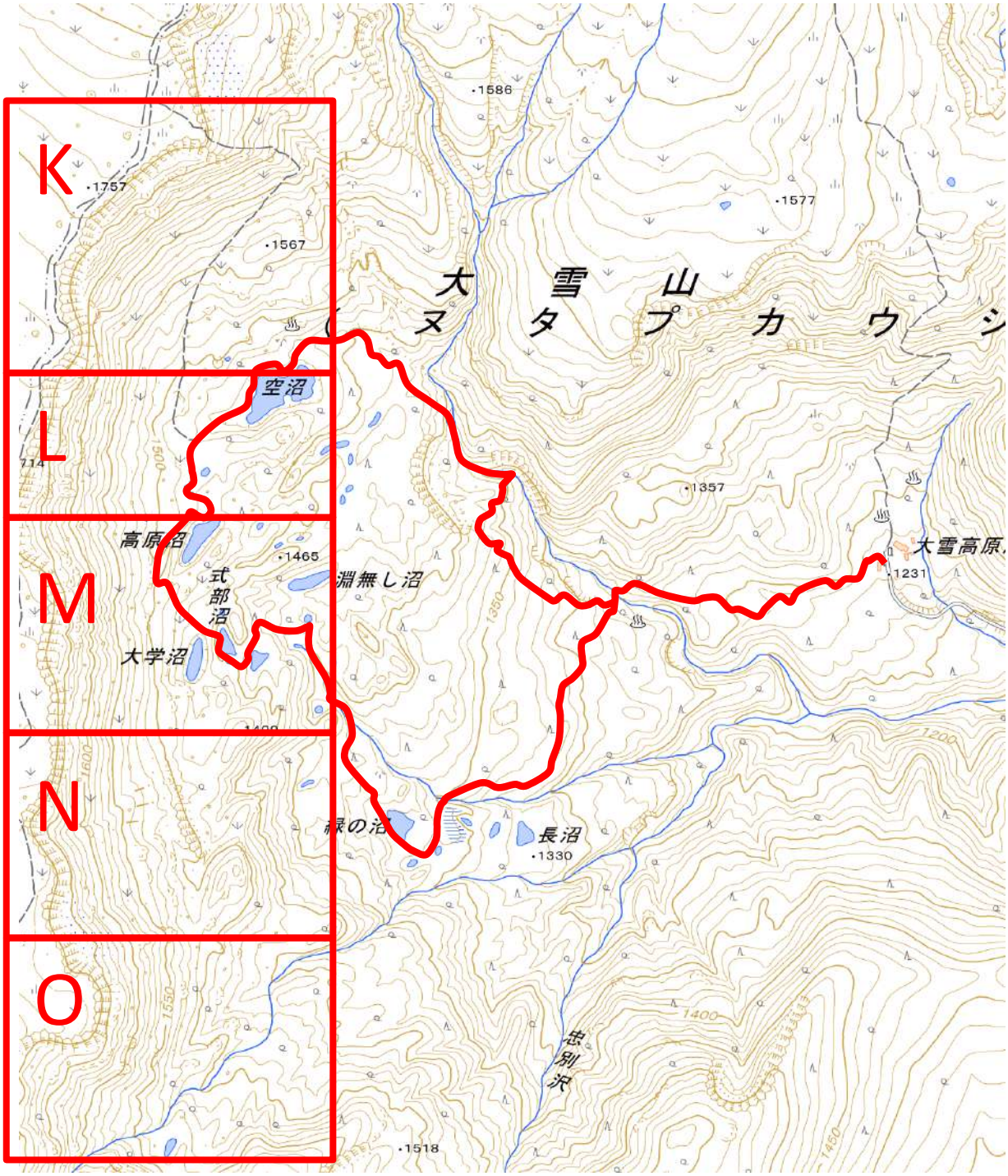
巻末資料

〇ヒグマ個体及び痕跡記録表、位置図
〇個体識別写真
〇エゾシカ個体数
〇沼巡り登山コース利用者数経年変化
〇登山道付近での目撃･遭遇状況
〇ヒグマ観察記録経年変化

2025年ヒグマ確認記録位置図1（歩道周辺）



2025年ヒグマ確認記録位置図2（高根ヶ原斜面）



2025年　ヒグマ個体及び痕跡記録表

個体	定点個体	足跡	食痕	糞	近距離遭遇

No.	日付	痕跡形態	場所	個体		前掌幅(cm)	採食物	糞	体毛	備考	地図記号
				頭数	識別名						
1	6/21	個体	バイカモ沢	1							C
2	6/21	個体	センターから1.2km看板奥	1							C
3	6/21	個体	空沼分岐上部から空沼方面へ	1							H
4	6/21	個体	高原沼の対岸	1							F
5	6/21	個体	高原ピーク上部	1			ナナカマドの残				G
6	6/21	足跡	右コースロープ場付近			12cm					I
7	6/21	足跡	高原ピーク付近			10cm					G
8	6/23	食痕	センターから700m(順路左手)				ミズバショウ				B
9	6/23	足跡	センターから700m水芭蕉群落			約14cm					B
10	6/24	足跡	耳沼手前雪渓上			約13cm					E
11	6/25	足跡	ヤンベ手前の坂からヤンベ奥階段			12cm					B
12	6/25	足跡	しょうこの沢手前から奥			15cm					C
13	6/25	足跡	センターから400m付近			15cm					B
14	6/25	食痕	〃				ミズバショウ				B
15	6/26	食痕	センターから400mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
16	6/26	足跡	センターから500mから700m登山道上			12cm					B
17	6/26	足跡	〃			15cm					B
18	6/26	足跡	ヤンベ過ぎ階段			15cm					C
19	6/26	足跡	右コース登り返し手前			12cm					J
20	6/26	足跡	右コース登り返し手前			15cm					J
21	6/27	足跡	センターから600m付近に点々			16cm?					B
22	6/27	爪痕	センターから300m地点の木								A
23	6/28	個体	高原ピークから三笠新道を見て150m先	1						オス	F
24	6/28	個体	高原ピークから大学沼	1						メス	F
25	6/28	個体	式部沼～エゾ沼	1	同上？						F
26	7/1	個体	センター駐車場	1					頭金		A
27	7/4	足跡	センターから400mミズバショウ群落			13cm					B
28	7/4	食痕	センターから400mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
29	7/4	足跡	センターから500m登山道上			10cm					B
30	7/4	足跡	センターから700mミズバショウ群落			15cm					B
31	7/4	足跡	センターから700mミズバショウ群落			13cm					B
32	7/4	食痕	バイカモ沢のミズバショウ群落				ミズバショウ				C
33	7/4	足跡	センターから1.4km付近			10cm					C
34	7/4	足跡	センターから1.4km付近			13cm					C
35	7/4	足跡	センターから1.4km付近			15cm					C
36	7/4	足跡	ショウコの沢手前50m付近			13cm					D
37	7/4	足跡	ショウコの沢手前50m付近			15cm					D
38	7/4	足跡	センターから1.4km付近～バイカモ沢			10cm				センター方向へ	C
39	7/5	足跡	センターから300mの木道脇			13cm				センター方向へ	B
40	7/5	足跡	センターから600mミズバショウ郡落			13cm					B
41	7/5	糞	センターから600m登山道上				草	緑			B
42	7/6	定点個体	センターから約2.4km	1						19:53	C
43	7/6	個体	三笠分岐地点の高根ヶ原斜面上部	2						親1子1	L
44	7/6	糞	大学沼から高原ピークの間の雪渓				草	緑			F
45	7/9	定点個体	センターから700m	1						19:56	B
46	7/9	個体	センターから500mミズバショウ群落	1							B
47	7/9	糞	センターから600m				草	緑			B
48	7/9	足跡	湯の沼過ぎた木道			15cm					E
49	7/9	個体	大学沼草地	1							F
50	7/10	個体	滝見沼ほとり	1							D
51	7/10	食痕	滝見沼ほとり				ミズバショウ				D
52	7/10	足跡	滝見沼ほとり			13cm					D
53	7/10	足跡	湯の沼手前の沢沿い			14～15cm				湯の沼方向へ	E
54	7/10	足跡	緑沼から湯の沼方面の木道							湯の沼方向へ	E
55	7/11	定点個体	センターから約2.4km	1						11:45	C
56	7/11	定点個体	センターから約2.4km	1						17:21	C

57	7/12	個体	センターから500mミズバショウ群落	1							B
58	7/12	個体	高根ヶ原三笠直上斜面	1							L
59	7/12	足跡	ショウコの沢手前			13～14cm					D
60	7/12	食痕	ショウコの沢手前				ミズバショウ				D
61	7/12	食痕	センターから右1.2km				ミズバショウ				C
62	7/12	食痕	鴨沼手前				ミズバショウ				E
63	7/13	定点個体	センターから700m	1						16:47	B
64	7/13	糞	高原ピーク周辺					緑			G
65	7/14	定点個体	大学沼	1						11:12	F
66	7/14	定点個体	大学沼	3						15:38	F
67	7/14	定点個体	センターから約2.4km	1						0:32	C
68	7/14	食痕	センターから1.2km				ミズバショウ				C
69	7/14	糞	センターから1.2km					緑			C
70	7/14	糞	高根ヶ原草地					緑			F
71	7/14	足跡	湯の沼手前の沢沿い			13cm					E
72	7/14	個体	センター横のミズバショウ群落	3						親1子2	A
73	7/15	定点個体	大学沼	1						14:54	F
74	7/15	定点個体	センターから約2.4km	1						9:27	C
75	7/15	定点個体	センターから700m	1						19:38	B
76	7/15	食痕	センター前駐車場トイレ前				ミズバショウ				A
77	7/17	個体	高原ピークから高根ヶ原斜面	3						親1個2	M
78	7/17	個体	三笠分岐地点の高根ヶ原斜面中腹	1							L
79	7/17	食痕	センターから400mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
80	7/17	食痕	センターから500mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
81	7/17	食痕	センターから600mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
82	7/17	食痕	センターから1.5km手前ミズバショウ群落				ミズバショウ				C
83	7/17	糞	センターから1.5km～ショウコの沢の間					緑			D
84	7/17	糞	ショウコの沢あがったところ					茶			D
85	7/17	糞	ヤンベ分岐から右コース入ってすぐ					緑			J
86	7/17	糞	センターから400m木道わき					黒			B
87	7/18	定点個体	センターから700m	1						18:34	B
88	7/18	糞	センターから600m地点より藪に入ったところ					黒			B
89	7/20	個体	高根ヶ原上部斜面	1							M
90	7/20	食痕	バイカモの沢				ミズバショウ				C
91	7/20	食痕	センターから1.2km過ぎ				ミズバショウ				C
92	7/22	個体	大学草地奥斜面	3						親1子2	N
93	7/22	食痕	センターから400mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
94	7/22	食痕	センターから1.2km手前ミズバショウ群落				ミズバショウ				C
95	7/22	食痕	センターから1.5kmミズバショウ群落				ミズバショウ				D
96	7/22	食痕	鴨沼手前ミズバショウ群落				ミズバショウ				F
97	7/22	食痕	湯ノ沼周辺ミズバショウ群落				ミズバショウ				E
98	7/22	足跡	ショウコの沢手前			12-13cm					D
99	7/23	個体	高原沼上部高根ヶ原斜面	3						親1子2	M
100	7/24	個体	三笠分岐上部高根ヶ原斜面	3						親1子2	L
101	7/24	個体	空沼分岐上部高根ヶ原斜面	1							L
102	7/25	食痕	センターから400mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
103	7/28	足跡	センターから700m地点のミズバショウ群落奥			13cm					B
104	7/28	糞	センターから701m地点のミズバショウ群落奥					茶			B
105	7/30	食痕	センターから600mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
106	7/30	個体	コウモリ雪渓上部	3							O
107	7/31	糞	センターから100m登山道上					茶			A
108	7/31	食痕	センターから300mのミズバショウ群落				ミズバショウ				A
109	7/31	足跡	センターから200m			15cm					A
110	7/31	足跡	センターから250m			15cm					A
111	7/31	足跡	センターから600m			15cm					B
112	7/31	足跡	センターから700m			15cm					B
113	7/31	足跡	センターから1.2km			15cm					C
114	7/31	足跡	センターから1.3km			15cm					C
115	7/31	足跡	センターから1.4km			15cm					C
116	7/31	足跡	ヤンベ沢橋手前			15cm					B
117	7/31	足跡	ヤンベ分岐すぎてすぐの階段			14cm					C

118	7/31	食痕	センターから1.4km				ミズバショウ				C
119	8/1	糞	センターから650m					黒			B
120	8/1	足跡	ヤンベ分岐手前			cm					B
121	8/2	足跡	バイカモ沢上流側奥			15cm					C
122	8/2	糞	緑沼携帯ブース手前					黒			D
123	8/2	糞	高原沼手前登山道脇					黒			F
124	8/2	個体	高根ヶ原6の谷	1							M
125	8/4	定点個体	ナナカマドトンネル出口	2						14:19	G
126	8/4	糞	センターから600m					茶			B
127	8/4	足跡	センターから500m			13cm					B
128	8/4	足跡	センターから650m			13cm					B
129	8/4	足跡	センターから700m			8cm					B
130	8/4	足跡	センターから700m手前			13cm					B
131	8/4	足跡	ヤンベ分岐手前			8cm					B
132	8/4	糞	センターから300m手前								A
133	8/5	糞	センターから100m					茶			A
134	8/5	食痕	ヤンベ分岐から300m				ミズバショウ				A
135	8/5	足跡	ヤンベ分岐から300m			11-12cm					A
136	8/6	糞	センターから200m								A
137	8/6	糞	センターから400m								B
138	8/6	食痕	センターから500m				ミズバショウ				B
139	8/6	食痕	センターから1.4km				ミズバショウ				B
140	8/6	足跡	センターから1.4km			10cm					D
141	8/6	足跡	センターから300m			14cm					A
142	8/6	定点個体	大学沼	2						19:15	F
143	8/8	食痕	湯ノ沼過ぎてすぐ				ミズバショウ				E
144	8/10	食痕	センターから400mミズバショウ群落				ミズバショウ				B
145	8/10	食痕	ショウコの沢100m手前のミズバショウ群落				ミズバショウ				B
146	8/10	食痕	湯ノ沼過ぎてすぐミズバショウ群落				ミズバショウ				F
147	8/10	食痕	右コースヤンベ分岐手前300m				ミズバショウ				J
148	8/10	食痕	右コースヤンベ分岐手前100m				ミズバショウ				J
149	8/13	足跡	右回りロープ場手前			15cm					I
150	8/13	足跡	右回り1.5km手前			13cm					I
151	8/13	個体	大学沼コウモリ雪渓	1							O
152	8/13	定点個体	大学沼	1						7:44	F
153	8/13	定点個体	大学沼	1						18:29	F
154	8/13	定点個体	ナナカマドトンネル出口	1						11:21	G
155	8/14	糞	センターから1.5km手前の木道脇					黒			B
156	8/14	食痕	緑沼トイレブースの向かい				ミズバショウ				D
157	8/14	足跡	雪壁温泉から150m付近の水たまり			15cm					H
158	8/14	定点個体	大学沼	1						3:37	F
159	8/18	個体	ヒグマ情報センター駐車場	1							A
160	8/18	食痕	ヤンベ分岐過ぎのミズバショウ群落				ミズバショウ				C
161	8/18	食痕	バイカモ沢のミズバショウ群落				ミズバショウ				C
162	8/18	糞	センターから1.2km					茶			C
163	8/18	食痕	センターから1.5km				ミズバショウ				C
164	8/18	足跡	センターから1.5km								C
165	8/18	糞	センターから1.6km					茶			C
166	8/18	足跡	ショウコの沢手前			13cm					D
167	8/20	食痕	センターから1.2km				ミズバショウ				C
168	8/20	食痕	センターから1.6km				ミズバショウ				D
169	8/22	糞	センターから1.2km				ミズバショウ			小さめ	C
170	8/24	食痕	センターから1.5km				ミズバショウ				C
171	8/24	足跡	センターから1.5km			15cm					C
172	8/25	糞	センターから50m				草と木の実	茶			A
173	8/25	定点個体	ナナカマドトンネル出口	1						12:10	G
174	8/28	個体	ヒグマ情報センター駐車場	3						親1子2	A
175	8/29	足跡	センターから450m			13cm					B
176	8/29	足跡	センターから500m			8cm					B
177	8/29	足跡	センターから700m			10cm					B
178	8/30	定点個体	大学沼	1							F

179	9/5	足跡	緑沼すぎ渡渉部			15cm					E
180	9/5	足跡	右コースセンターまで2km			13cm					J
181	9/6	定点個体	大学沼	1						10:26	F
182	9/9	糞	センターから40m付近				草	黒			A
183	9/9	糞	ヤンベ分岐からのぞき地獄へ30m付近				草	黒			C
184	9/9	足跡	センターから400m付近			12cm					B
185	9/13	足跡	センターから1.4km付近			14cm					D
186	9/13	足跡	センターから1.4km付近			10cm					D
187	9/13	足跡	湯ノ沼過ぎた沢横の登山道			12cm					E
188	9/16	定点個体	大学沼	1						9:53	F
189	9/16	足跡	湯ノ沼すぎ			11cm					E
190	9/17	定点個体	ナナカマドトンネル出口	1						16:56	G
191	9/17	定点個体	ナナカマドトンネル出口	1						17:53	G
192	9/18	足跡	センターから500m			12cm					B
193	9/18	足跡	センターから600m			12cm					B
194	9/18	食痕	センターから600m				ミズバショウ				B
195	9/18	足跡	湯ノ沼すぎ			12cm					E
196	9/20	足跡	空沼			12cm					H
197	9/23	足跡	センターから400m付近			14cm					B
198	9/30	足跡	センターから100m付近								A
199	9/30	足跡	センターから500m								B
200	9/30	食痕	センターから500m								B
201	9/30	足跡	ヤンベ沢橋手前								B

個体-1

6月28日に空沼分岐上部でメス熊を追いかけて出てきた個体。黒っぽい色をしていいる大きめの雄。
人に気が付くとすぐに逃げて行ったため、警戒心は強いものと思われる。

個体-2

6月28日にオス熊に追われて空沼分岐付近に出てきた個体。高原ピーク付近で巡視員の方に駆け寄ってくる行動をとる。ナナカマドの残り実を食べており、6月21日に高原ピーク上部で同様にナナカマドの実を食べている姿が確認された個体と同様と思われる。その後7月9日にも大学沼で確認されている個体と似ているが、同一個体かどうかは不明。

個体-3

７月12日にセンターから500m付近のミズバショウ群落で確認された個体。黒っぽい色をしており、大きめ。センサーカメラでも、700m地点や1.2km地点付近でミズバショウを食べる大きめの個体が映っており、同一個体の可能性も考えられる。

個体-4

7月12日と18日に三笠直上部斜面付近にて確認された個体。

個体-5

7月17日から24日にかけて、大学沼から三笠分岐上部の区間で確認された親子3頭。親クマは頭の部分が赤っぽい毛の色をしている。子熊は当歳2頭。

個体-6

7月14日と8月18日にヒグマ情報センター前の駐車場にて、当歳2頭を連れた親子3頭が確認された。同一個体かどうかは不明。他の日にも親子熊が高原林道で度々目撃されている。

2025年　エゾシカ頭数調査票

日付	6月	7月	8月	9月	10月
	頭数	頭数	頭数	頭数	頭数
1		6		1	
2			2	2	3
3			2	0	3
4		1		1	
5		1		1	
6		1		3	
7					
8			3		
9		1		2	
10		3	2	3	
11					
12		3			
13		2		4	
14		2	3		
15	2	1		2	
16		3		1	
17		1			
18		3	3	3	
19					
20	5	1	3		
21	5			8	
22	0	1	1		
23	1			3	
24	0	2	1		
25	5		3	4	
26	3	1	3	1	
27	0	18			
28	5	1	3		
29	0	1	1		
30	1	2	1		
31		3	10		
計	27	58	41	39	6

2025年　登山道付近での目撃・近距離遭遇状況

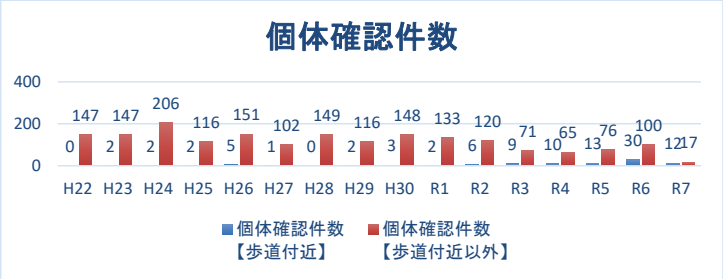
目撃日	6月21日	①＜登山者複数情報＞ 8:15頃、バイカモ沢の雪渓付近にて登山者が遭遇。距離5mほど。ヒグマが先に気付いており、目が合った後、ヒグマは「どうしよう」という雰囲気で、登山道上にいる登山者を迂回する形で下方向の水芭蕉方面へ去っていったとのこと。（写真提供あり）
場所	バイカモ沢	
鈴等の携帯	有	
目撃日	6月21日	②＜登山者複数情報＞ 9:15、　センターから1.2kmをすぎた付近にて、角を曲がったところでガサガサ音がしたと思ったらヒグマと遭遇。同じ場所に登山者が12名程いたが、ヒグマは焦ってはおらず、登山道脇（距離15m程）を迂回する形で右下の方向に歩いていったとのこと。（写真提供あり）
場所	センターから1.2km付近	
鈴等の携帯	有	
目撃日	6月21日	③＜センター職員、登山者遭遇＞ 12:15頃、高原ピーク上部で怪我をして歩行不能なスキーヤーのグループが、空沼方面から歩いてくるヒグマを確認。スキーヤーたちは5人グループだったが、距離60～70m程度の場所でヒグマはしばしとどまり、何かを食べていた。（おそらく残雪の中のナナカマドの藪から出ている昨年の残り実を食べていたものと思われる。） 巡視員が無線でスキーヤーの怪我を聞きつけて空沼方面からその場に向かっているときにヒグマの姿を確認。巡視員からの距離は200m程だったが、スキーヤーより手前にヒグマがいるためしばし近づけず。十数分後、ヒグマは大学沼方面へ立ち去り、その後大学草地奥斜面左側に向かった様子。 ※その前段階で、11:10～11:30位の間で、空沼分岐上部から高原沼対岸にかけてヒグマが目撃されており、同個体と思われる。
場所	高原ピーク上部	
鈴等の携帯	有	
目撃日	6月28日	④＜センター職員遭遇＞（2頭） 8:35、巡視員3名が、高原ピークから三笠分岐方面へ150m程の右側ブッシュ（空沼側）からヒグマ1頭が出てくるのを最初に確認。その後そのヒグマを追いかけるようにもう一頭別のヒグマが出てきたが、こちらに気が付き2本足で立ち上がったのち空沼方面へ戻っていった。最初に出てきた一頭はこちらに気が付いているものの気にせずに高原ピーク上部のブッシュへ歩いて行き、ナナカマドの残り実を食べていた。大学沼から三笠新道へ行きたい登山者が続々と登ってきていたが、ヒグマはたまに近いて来るそぶりを見せたため、巡視員1名が登ってくる登山者全員を引き止めて大学沼まで下がって待機。三笠新道の通行の可否に関わるため、巡視員2名が距離をとりつつピーク付近でヒグマの動向を確認していると、8:55頃、ヒグマが急に巡視員の方向へ走ってきた。声をかけスプレーを構えるが、10m程まで接近したところで方向を変え、大学沼の方向へ。大学沼付近には、巡視員1名と登山者20名がいたが、その横をそのまま進んでいき、高原沼方向のブッシュの中へと入っていった。（大学沼の登山者とヒグマの最短距離は約20m程） その後三笠新道はその場で閉鎖とし、巡視員と集まった登山者全員が一緒に下山。
場所	高原ピーク～大学沼	
鈴等の携帯	有	
目撃日	6月28日	⑤＜登山者遭遇、センター職員と登山者目撃＞ ④の後、全員揃って下山を開始したところ、式部沼にてゆっくりとエゾ沼方向へ歩く熊を確認。その後式部沼とエゾ沼の間の登山道にて登山者と5m程の距離で遭遇し、ヒグマは引き返して大学沼方向のブッシュの中へ去って行った。慌てる様子はなかったとのこと。
場所	式部沼～エゾ沼	
鈴等の携帯	有	

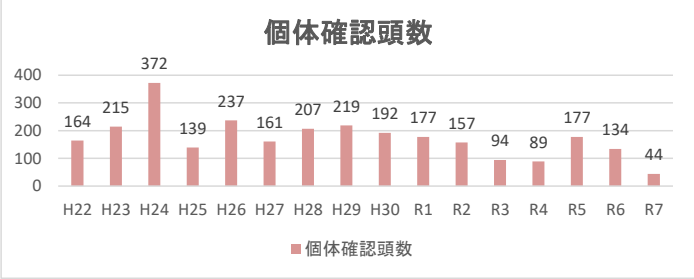
目撃日	7月1日	⑥＜センター職員遭遇＞ 12:30頃、駐車場トイレへ向かってスタッフが歩いていたところ、センターに隣接する駐車場隣のミズバショウ群落からヒグマ1頭が飛び出してきて約5m程の距離で遭遇。その後スタッフが後退すると、立ってこちらを確認しながらミズバショウ群落の中へ引き返していった。およそ5分後、同じ場所から道路へ出てきて林道を下っていく様子を確認した。
場所	センター横 駐車場	
鈴等の携帯	有	
目撃日	7月9日	⑦＜センター職員遭遇＞ センターから500m付近のミズバショウ群落にヒグマ1頭を、巡視員から30-40m程度の距離に確認。巡視員に気付いた後、ミズバショウ奥の方へ走り去っていった。
場所	センターから 500m付近	
鈴等の携帯	有	
目撃日	7月9日	⑧＜センター職員目撃＞ 大学沼草地で採食中のヒグマ1頭を大学沼入り口の藪から確認。こちらに気が付いているかどうかは不明。草を食べ、座ってくつろぐ様子あり。その場から離れず、高原沼方向へ進むとヒグマとの距離が25m程度になってしまうため、引き返した。
場所	センターから 500m付近	
鈴等の携帯	無	
目撃日	7月10日	⑨＜センター職員目撃＞ バショウ沼から向かい滝見沼の入口付近にて、滝見沼の看板付近にいるヒグマを確認。巡視員に気づいている様子はなかったが、ヒグマが登山道に出て巡視員の方向に歩いて来たため、引き返してバショウ沼付近でしばらく待機。その間に、ヒグマが巡視員の見える位置まで歩いてきたが、突然方向転換して滝見沼の方へ戻って行った。その後10分程待機し、巡視を再開。ヒグマの姿は無くなっていたが、緑沼を過ぎた付近の木道にて濡れたヒグマの足跡を確認。
場所	滝見沼	
鈴等の携帯	無	
目撃日	7月12日	⑩＜センター職員目撃＞ センターから500m地点のミズバショウ群落に巡視員がヒグマを確認。登山道からの距離は100m程。こちらに気が付き急いで奥のブッシュに立ち去って行ったが、位置確認等の為巡視員がその場所の数分とどまっている間に奥からガサガサと音が聞こえて来た。戻ってきたい気配を感じた為すぐにその場を移動し、巡視を続けた。
場所	センターから 500m付近	
鈴等の携帯	無	
目撃日	7月14日	⑪＜登山者目撃＞ 車で林道を上がってきた方が、センターから下った最初のカーブでヒグマ親子3頭と遭遇。ヒグマはびっくりした様子で右のブッシュに入っていったが、その後車でセンターの方へ向かうと、センター横のミズバショウ群落に入っていく親子グマ（親1子2）を車の中から確認したとのこと。（写真提供あり）
場所	センター横 駐車場	
鈴等の携帯	無	
目撃日	8月18日	⑫＜センター職員目撃＞ 林野庁詰め所の前をヒグマが通り、高原山荘の裏を通ってゴミ焼却場のところから藪に入って行ったとのことで林野庁職員からの知らせあり。その後センター員が駐車場奥（トイレ側）にヒグマの姿を確認するも、すぐに藪の中に入っていった。
場所	センター前 駐車場	
鈴等の携帯	無	

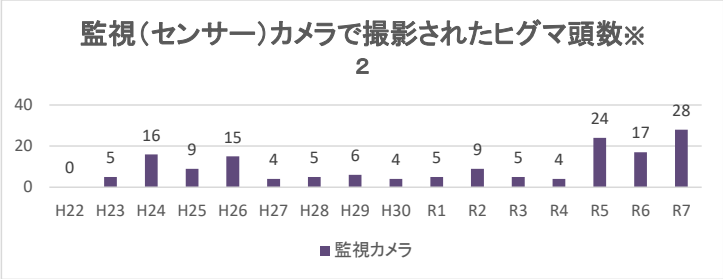
※センター前駐車場における目撃、遭遇情報も含んでいる。
※次項の集計表における歩道付近の個体確認件数については、登山者情報についても複数の目撃があり写真も提供してもらっているため、全てを計上した。

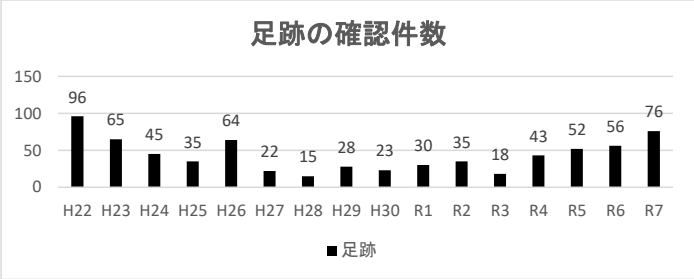
（参考）ヒグマ観察記録経年変化　※１

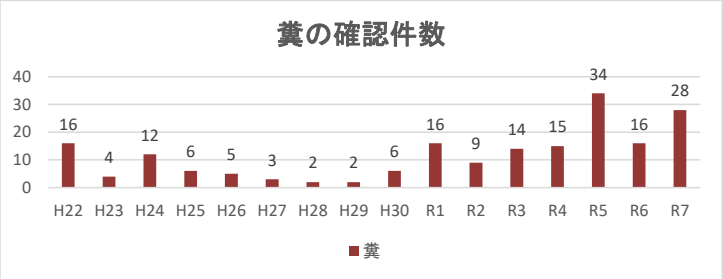
年度	個体確認件数【歩道付近】	個体確認件数【歩道付近以外】	個体確認件数合計	個体確認頭数	監視カメラ	足跡	糞	食痕	体毛爪痕
H22	0	147	147	164	0	96	16	25	1
H23	2	147	149	215	5	65	4	2	3
H24	2	206	208	372	16	45	12	40	7
H25	2	116	118	139	9	35	6	7	2
H26	5	151	156	237	15	64	5	18	3
H27	1	102	103	161	4	22	3	16	0
H28	0	149	149	207	5	15	2	14	0
H29	2	116	118	219	6	28	2	13	0
H30	3	148	151	192	4	23	6	26	0
R1	2	133	135	177	5	30	16	25	1
R2	6	120	126	157	9	35	9	29	1
R3	9	71	80	94	5	18	14	19	1
R4	10	65	75	89	4	43	15	27	0
R5	13	76	89	177	24	52	34	50	1
R6	30	100	130	134	17	56	16	54	0
R7	12	17	29	44	28	76	28	43	1

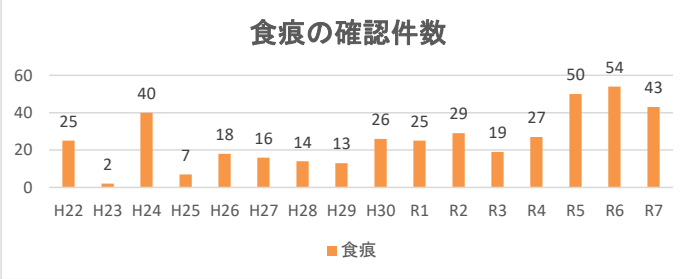




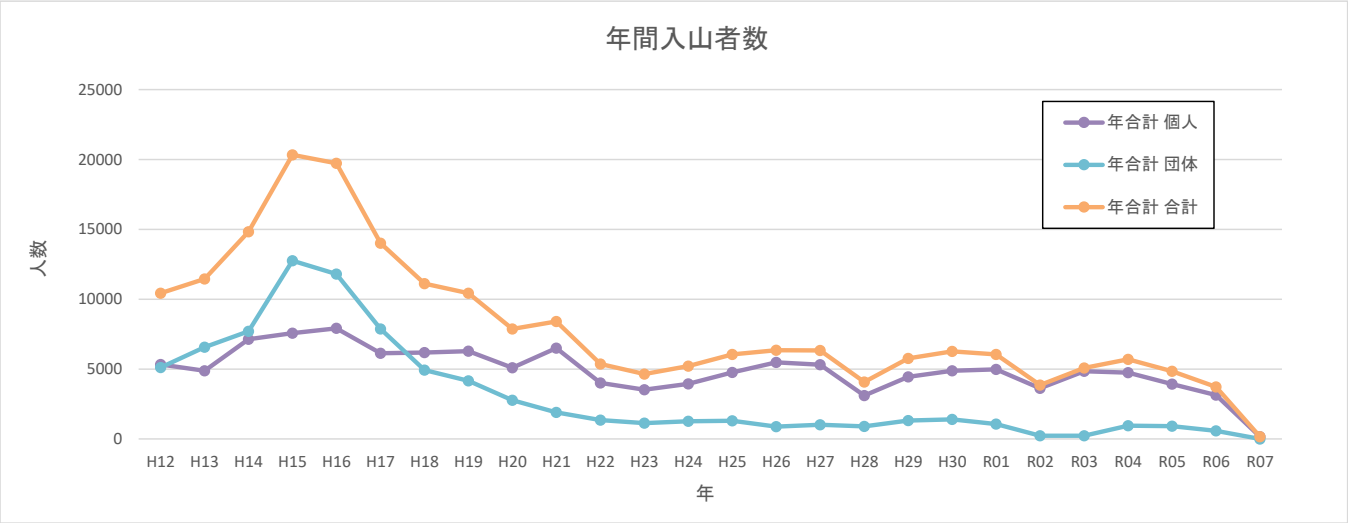








※1 令和7年度は6月29日以降コース完全閉鎖となりコース解放が5日間のみ。
※2 2019年からはセンサーカメラは頭数確認ではなく行動記録を目的としており、設置場所や設置数も年によりばらつきがあるため、参考記録である。

（参考）大雪高原沼沼巡りコース入山者集計表

年	6月			7月			8月			9月			10月			年合計		
	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人	団体	小計	個人	団体	合計
H12	47	0	47	241	287	528	306	48	354	4037	4494	8531	691	278	969	5322	5107	10429
H13	44	0	44	296	220	516	367	117	484	4091	5692	9783	81	545	626	4879	6574	11453
H14	73	225	298	276	917	1193	292	67	359	6206	6198	12404	285	296	581	7132	7703	14835
H15	69	425	494	442	3987	4429	377	732	1109	6506	7247	13753	181	364	545	7575	12755	20330
H16	130	432	562	414	4631	5045	379	532	911	6774	5799	12573	216	411	627	7913	11805	19718
H17	60	210	270	395	2813	3208	330	232	562	4872	4464	9336	473	151	624	6130	7870	14000
H18	54	70	124	385	220	605	300	144	444	4385	4052	8437	1060	441	1501	6184	4927	11111
H19	74	26	100	385	245	630	355	25	380	4821	3478	8299	639	388	1027	6274	4162	10436
H20	182	48	230	367	154	521	301	22	323	4061	2483	6544	183	63	246	5094	2770	7864
H21	157	44	201	311	87	398	69	15	84	5830	1700	7530	136	56	192	6503	1902	8405
H22	95	23	118	373	57	430	258	36	294	2851	1192	4043	425	46	471	4002	1354	5356
H23	76	15	91	286	92	378	262	125	387	2692	859	3551	207	34	241	3523	1125	4648
H24	71	0	71	296	58	354	286	58	344	1703	1154	2857	1584	0	1584	3940	1270	5210
H25	135	38	173	277	118	395	237	42	279	3118	1080	4198	987	20	1007	4754	1298	6052
H26	199	24	223	305	113	418	96	14	110	4617	631	5248	257	93	350	5474	875	6349
H27	157	40	197	349	60	409	266	59	325	4500	853	5353	42	0	42	5314	1012	6326
H28	112	32	144	345	141	486	231	41	272	1696	558	2254	796	121	917	3108	893	4073
H29	77	42	119	381	95	476	234	17	251	3257	1100	4357	393	69	462	4442	1323	5765
H30	152	49	201	349	150	499	381	50	431	3658	1130	4788	332	14	346	4872	1393	6265
R01	151	0	151	382	47	429	302	80	382	3682	868	4550	453	89	542	4970	1064	6054
R02	99	7	106	325	10	335	386	19	405	1892	194	2086	923	7	930	3625	237	3862
R03	416	5	421	416	34	450	353	41	394	3119	107	3226	541	39	580	4845	226	5071
R04	237	18	255	145	48	193	283	7	290	3382	730	4112	700	145	845	4747	948	5695
R05	294	35	329	381	109	490	373	44	417	1861	572	2433	1013	158	1171	3922	918	4840
R06	144	8	152	437	71	508	351	26	377	1810	433	2243	404	46	450	3146	584	3730
R07	159	0	159	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	159	0	159